

7. 令和2年度 基準範囲共用化委員会報告

Report from the committee on common-use reference interval in 2020

康 東天 (基準範囲共用化委員会委員長、九州大学大学院医学研究院教授)

Dongchon Kang, MD, PhD (Chairperson of the committee on common-use reference interval, Professor of Kyushu University Graduate School of Medical Sciences)

活動内容：

日本臨床化学会 (JSCC) が目指す、ALP・LD 標準測定法の 2020 年度中の変更完遂に連動し、共用基準範囲の適応範囲拡大に努めた。

委員会開催：

COVID-19 感染拡大のため未開催

状況報告：

1. 共用基準範囲について下記の転載申請があり、審議の上、許可した。
 - ・株式会社メディカルデータ 「検査と適応疾患 令和2年4月版」
 - ・医学書院 臨床検査第64巻11号 「臨床判断値を考える 脂質検査の臨床判断値」
 - ・医学書院 「臨床検査データブック 2021 - 2022」
 - ・(株)じほう 薬剤師手帳 「主な臨床検査項目における共用基準範囲」
 - ・株式会社シノテスト 「日本における主要な臨床検査項目の共用基準範囲」

下記の問合せについて回答した。

- ・富山大学 UN 基準範囲について
- ・JSCC コリンエステラーゼ基準値における男女別基準範囲について

2. 共用基準範囲採用%の推移調査

日本医師会、日本衛生臨床検査技師会の精度管理調査アンケートから年次採用率の推移を調査し、いずれのアンケートにおいても R1 年度より、採用している医療機関が増加していることを確認した。(日医 平均採用率 35.2%、日臨技 R1 23.7% → R2 28.3%)

3. 今後の活動について

年々、共用基準範囲の採用施設は増加傾向にある。Q&A 等の採用促進ツール、WEB 研修会等を活用して普及に努める。